

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東中学校	校長氏名	高橋 延昌	生徒指導主事氏名	山口 裕三
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『福山市立東中学校 文化祭 3 年ミュージカル・エルコスの祈り』

取組のねらい『キーワード； すばらしい行事と歌声のある学校』

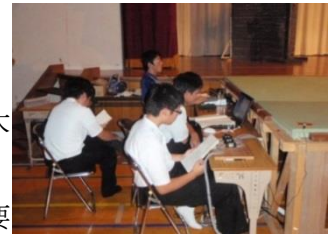
東中学校には 4 つの特色があり、その 1 つに「すばらしい行事と歌声のある学校」があります。中学校の年間行事の中で体育大会と文化祭は特別活動の内容を計画的に取り組む大きな行事となります。特に 3 年生にとっては中学校生活最後の行事となり、今までの特別活動・学校行事等を通して集団行動を学び、身に付けた 3 学年集団の力を発揮する舞台となります。東中学校の文化祭では 3 年生のミュージカルが伝統になっています。それは体育科・音楽科・技術家庭科・美術科等で学び、総合的な学習で目標とする「課題を探索し主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる」ことや中学校 3 年間の特別活動（すばらしい行事と歌声）、その主たる目標の「望ましい集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成することや、自己の生き方についての考えや自覚を深め、自己を生かす能力を養う」等を取組の柱とし、自己指導能力を身に付けるための積極的生徒指導の実践に向け、すべての教職員で取り組んでいます。



取組の具体的内容『キーワード； 一人一役全員主役』

特別活動（学校行事；文化祭）は生徒指導にとって重要な教育活動の場になっています。特別活動の指導において次の 3 点（生徒指導の三機能）を重視して取り組んでいます。まず 1 点目は「生徒に【自己決定】の場や機会をより多く用意し、生徒が自己実現の喜びを味わうことができるようにする」ことです。次に「生徒に【自己肯定感・自己存在感】を与える」ことです。3 点目は「生徒と教職員の信頼関係及び生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」ことです。

東中学校、文化祭のテーマは「一人一役全員主役」というものです。特に、3 年生のミュージカルでは生徒一人一人が自らの判断で「役者・音響照明・大道具・小道具・背景・衣装」の中から役割を自己決定し、責任を持ち取組を進めていきます。この取組には「生徒に【自己決定】の場を与える」という要素があります。役者を希望した生徒は自分が演じたい役を選び、複数の生徒が希望した役に対してはオーディションを実施しました。オーディションでは実際に審査を行い、「セリフ・ダンス・歌声」を総合的に評価し、配役を決定しました。生徒は夏休みの間に練習を重ね、オーディションに挑みました。必死で努力したが、役者に選ばれなかった生徒は涙を流しながらも、次の目標（配役）に向け真剣に努力する姿と仲間から励まされ共に成長する姿がみられました。この活動には「生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」の要素があり、お互いを励まし合い、自分の役割に責任を持ち活動する姿は、特別活動の「望ましい集団の育成」に繋がっています。また、役者以外のパートでも生徒と教職員がミュージカルに向け課題を解決するため、真剣にお互いの考えや思いを伝え合い、取り組んでいる姿には「生徒と教職員の信頼関係を基に【共感的な人間関係】を育てる」という生徒指導の機能が活かされています。それぞれの役割に責任を持ちながら、各自の目標を達成することで、生徒一人ひとりがミュージカルの一員として主体的に参加し、自分らしさを発揮できたことが「生徒に【自己存在感】を与える」活動となりました。生徒会で話し合い、決定した文化祭のテーマ「一人一役全員主役」を実現できたことは生徒たちの自信となり、わずかながら自己指導能力の育成へ繋がりました。



取組の課題・創意工夫『キーワード； 自分の限界に挑戦』



特別活動「ミュージカル」を題材に取り組むとき、その学年集団・生徒実態を深く分析し、どのようなシナリオ・台本が適しているのか検討する必要があります。また、授業実数の問題もあるので、学校年間計画を立てる段階からどれくらいの期間で「ミュージカル」を完成させるかを検討します。本校では夏休み期間や土・日曜日を使い、限られた時間の中で生徒も教職員も自分たちの限界に挑戦する気持ちで取り組んでいます。しかし、授業時間確保のため限られた時間で集中して活動することが難しくなっています。特別活動は積極的生徒指導を効果的に実践するうえで重要な活動です。この特別活動「ミュージカル」の取組を継続できるように年間計画を工夫し、生徒と教職員の成就感、充足感、連帯感を高め続けることも課題となります。

取組の成果（効果）『キーワード； 夢・自信そして進路』

生徒の感想：「文化祭をするうえで、3年生は『一人一役全員主役』という言葉テーマをやってきた。私は道具係だったけど、道具あつての完璧な演技だと思し、もちろん他の係の人達がいる、ミュージカルができるので、裏方の人がどれだけ大切なものなのかという事がわかりました。役者ばかりが主役じゃないと思えたので、私も自分の仕事をやり遂げることができました。今回のミュージカルを通して、自分の仕事に責任を持たないといけないこともわかりました。この経験を生かして、自信を持ち、これから先にあること、まずは受検に向けて、今自分がすべきことをしっかり考えがらばって、後悔しないようにしていきたいです。」

3学年通信9月30日号 No.11より



今後の展開『キーワード； 東中伝統の継承』



特別活動；「学校行事」で積極的生徒指導が効果的に実践されるためには中学校3年間の計画的な取組が必要となります。体育大会は学年を超えた異年齢の集団を望ましい集団へ高める活動に仕組み、特に3年生には最高学年の自覚を持たせ、主体的に活動できるものにしていきます。東中学校の特色「すばらしい行事と歌声のある学校」が東中学校の伝統で、文化祭では3年生が「ミュージカル」をすることになっています。1・2年生がその「ミュージカル」を観て、「自分たちが最高学年になったら先輩を超えられるようなミュージカルを自分たちがやり遂げるんだ」と思える文化祭になるように取り組んできました。東中学校では特別活動；「学校行事」を積極的生徒指導の柱として学校を立て直してきました。今後は「守破離」という言葉のように伝統を守り、生徒達と共にそれを超える特別活動を新しく創る努力を続ける必要があります。

他校へのアドバイス『キーワード； ステップアップする行事（体育大会・文化祭）：三年生のプライド』



本校は9年前、問題行動が同時多発的に起こる荒れた学校でした。その当時、教職員が「この学校を変える。」という同じ目標に向け、学校行事に取り組んでいました。その活動の中で起こる様々な問題行動に対して丁寧に生徒指導（消極的生徒指導）を続けました。該当の生徒に対しても学校行事には主体的・協同的に参加するように指導しました。少なくとも3年間を見通し、3年生になった時の自分たちの姿がイメージできるように、ステップアップした特別活動を計画的に仕組んできました。3年生には最高学年としての自覚を持たせ、自己指導能力を身に着ける特別活動が自らの進路実現と自己実現に繋がると考えて取組を続けています。